

笹ヶ峰フィールドセミナーに参加して

8月6日(水)から8月8日(金)にかけ、笹ヶ峰でのIPSフィールドセミナーに参加した。「道具使用」をキーワードに、世界各地から、チンパンジー、フサオマキザルのフィールドワーカーが集まった。海外の研究者と寝食、散歩、議論を伴にして、たくさんのもので得た。その中でも、特に印象に残ったものを、三点記述する。

ひとつめが、海外の女性フィールドワーカーの「強さ」である。「強さ」とは、精神、身体の2つにわけられる。

精神に関していうと、とても元気が良い。電車での移動中、散歩中、そしてヒュッテの中など、いつでも、どこでも楽しそうに、陽気に話し続けている。疲れている(であろう)ときでさえも、話し続けている。みんな一緒になって笑い合い、一体感のようなものが生まれていた。おそらく、これは、フィールドワークを行う(女性?)研究者ならではの雰囲気なのだろうと思った。私は、実験室のみで実験する研究者の雰囲気に触れる機会もあるが、それほど活発ではないし、一体感のようなものもない。おそらく、フィールドワーカーには、どれだけ過酷な場でも、楽しく過ごして乗り切ることが必要であり、よって彼女たちのような精神力がつくのだろうと思う。

身体に関していうと、まず、規則正しく健康だ。なんといっても、朝起きるのがとても早い。23時ごろ就寝していたはずなのに、朝5時から山を登っている。また、私は毎日6時に起床したが、ヒュッテのベランダには、すでにコーヒー片手に景色を眺める方々がたくさんいた。野生のチンパンジーやフサオマキザルを研究するには、ネストから追跡する必要がある。おそらくその習慣で、朝は早いのだろう。しかし、唯一リラックスできるこのヒュッテに来てその習慣が抜けない彼女たちの行動に感銘を受けた。自分も生活を見直し、普段からそのようなタフさ、健康さを忘れず、健康管理をしたいと思った。

また、彼女たちには体力がある。滝まで一緒に散歩に出掛けたが、かなり険しい道や、急な道でも、年齢によらず、全員がすいすい進んでいた。また、その散歩の帰路には、3名の方がかなり冷たい川で、水泳を楽しんだようだ。泳ぐ準備をしていなかったはずなのだが、しっかり頭まで濡れて帰ってきた。また若い女性研究者らが、火打山をかなりの速さで登って帰ってきたと聞いた。海外の女性研究者はかなり体力がある。とてもかっこいいし、そのような人になりたいと思った。しかし、体格など、日本人女性には物理的に負けてしまう部分がある。そこで、日本人女性は、松沢先生がおっしゃっていた「柔軟さ」「しなやかさ」を身に着けることが大切だと思った。それに加え、「繊細さ」のようなものも、強みになるのではないかと思う。量より、質を大切にしていこう心がけたい。

ふたつめが、ディスカッションの熱さ、である。今回のセミナーで、それぞれの研究者

が15分の発表を行ったわけであるが、IPS直前ということで、アイデアを出し合ったり、コメントをいったりといった「情報提供」を主としたものにしよう、という松沢先生からの言葉が最初にあったはずだ。しかし、やはりディスカッションはとても白熱した。発表者だけでなく、聴衆者も全力で話を聞き意見を言う、このスタイルにはいつも驚かされるとともに、真似したいと強く感じる。そのためにも、私が今後すべきことは以下の2つである。①ゼミなどの場で、どんどん積極的に質問をする姿勢を身に着ける、②白熱した英語での議論に交われるくらい英語を堪能に話せるようになる。これらを意識して、海外の研究の場のような雰囲気を作り出せるようになりたい。

最後は、研究の場だけでなく、日常生活でも一日中英語漬けになることの効果である。今回は、研究発表やその後の懇親会だけでなく、移動や日常生活すべてを海外の研究者とともにした。はじめは、英語を話しかけることに少しためらいがあったり、聞きとりにくかったりもしたが、日が経つにつれ、どんどん英語に慣れてきた実感があった。このようにして英語を伸ばしたいと強く願うが、日本で今回のような状況を常につくることは厳しい。せめても、毎日絶対TEDなどで英語を聞く、英語の本を読むなどして、英語に触れる機会を能動的につくっていかうと思う。

今回の笹ヶ峰フィールドセミナーでは、研究の発表の場だけではなく、他の日常的な海外研究者の姿を見ることができた。知り合いを増やすことができ、自身の研究について話をできたこともありがたかった。この経験を、研究にだけでなく、日常生活においても活かせるようにしたい。

最後になりましたが、とても貴重な機会をくださった、松沢先生に感謝申し上げます。最新のチンパンジーのジェスチャーのお話を聞くことができ、またフサオマキザルの研究者と触れ合う機会を得られて良かったです。